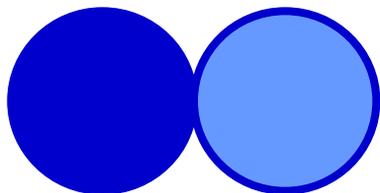
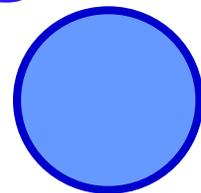


週間天気予報関連 プロダクトの見方



気象庁 予報部 予報課

はじめに

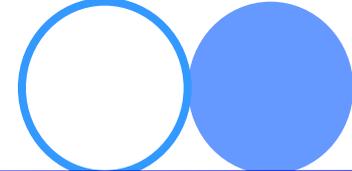
10月7日11時 神奈川県 の週間天気予報

日付	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	
神奈川県 府県天気予報へ	晴 	晴時々曇 	曇のち一時雨 	雨のち曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	
降水確率(%)	0/0/10/10	10	60	70	10	10	10	
信頼度	/	/	B	C	A	A	A	
横浜	最高(°C)	25	25 (23~26)	23 (21~25)	22 (21~26)	24 (21~26)	23 (21~24)	23 (20~24)
	最低(°C)	14	16 (15~19)	18 (17~21)	18 (16~20)	16 (15~18)	16 (15~18)	16 (14~18)
平年値	降水量の合計		最高最低気温					
横浜	平年並 21 - 55mm		最低気温 16.0 °C		最高気温 22.2 °C			

信頼度とは？

気温の幅って何？

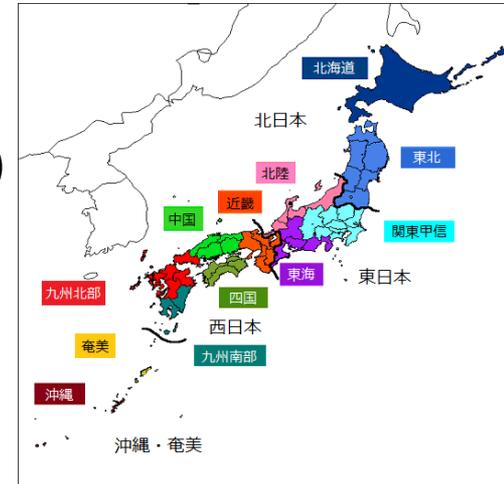
これらの他に、梅雨の時期に関する気象情報なども週間天気予報に関連した情報です。



- 週間天気予報関連のプロダクト
- 週間アンサンブル予報
- 週間天気予報で使う予測資料
- 週間天気予報の予測精度

週間天気予報関連のプロダクト

- 全般週間天気予報（本庁のみ）
- 地方週間天気予報（地方予報区ごと）
- 府県週間天気予報（府県ごと）
- 気象情報（全般、地方、府県）
 - 発達する低気圧、高温、大雪など
 - 梅雨の入り明け（地方情報のみ）
- 週間天気予報解説資料



11の地方予報区
（※九州南部と奄美は鹿児島
地方気象台が発表）

全般週間天気予報

平成27年9月29日10時50分 気象庁予報部発表

予報期間 9月30日から10月6日まで

北海道地方は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。

東北地方から西日本にかけては数日の周期で天気が変わり、期間の前半に低気圧や前線の影響で雨の降る日があるでしょう。

沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みですが、期間の中頃にかけて気圧の谷や湿った気流の影響で曇る所があるでしょう。

なお、発達する低気圧の影響で、北日本では10月1日から3日にかけて大荒れや荒れた天気となり、東日本と西日本は10月1日から2日にかけて荒れた天気となる所があります。

最高気温・最低気温とも、北日本から西日本にかけては平年並か平年より低い日が多い見込みですが、期間の中頃にかけて平年より高い所があるでしょう。沖縄・奄美は、平年並か平年より高い見込みです。

全般週間天気予報は、気圧系等の動向、天気の概要、防災事項などについて、全国的な概況を示す。

基本的には1日1回発表（11時発表）だが、変更があれば17時にも発表する。

気象庁HP上の表示例

ホーム

防災情報

各種データ・資料

知識・解説

気象庁について

案内・申請

[ホーム](#) > [防災情報](#) > 週間天気予報

週間天気予報

その他
の情報

各府県の週間天気予報 [全国](#)

印刷

再読込

[説明へ](#)

全般週間天気予報

平成27年10月5日10時45分 気象庁予報部発表

予報期間 10月6日から10月12日まで

北日本は、期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。その後、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨でしょう。

東日本と西日本は、期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。後半は、気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすいでしょう。

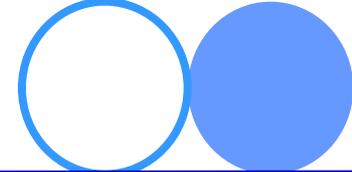
沖縄・奄美は、高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。

なお、8日から9日にかけては、北日本では台風第23号の影響で大荒れや荒れた天気となる所があるでしょう。

最高気温・最低気温ともに、北日本は平年並か平年より高い日が多いでしょう。東日本と西日本は平年並か平年より低い見込みですが、期間の後半は平年より高い所があるでしょう。沖縄・奄美は、平年並か平年より高い見込みです。

再読込ボタンかブラウザの更新ボタンをクリックして最新の情報をお使いください。

- [気象警報・注意報](#)
- [気象情報](#)
- [海上警報](#)
- [台風情報](#)
- [指定河川洪水予報](#)
- [土砂災害警戒情報](#)
- [土砂災害警戒判定メッシュ情報](#)
- [竜巻注意情報](#)
- [大津波警報・津波警報・津波注意報・津波情報・津波予報](#)
- [地震情報](#)
- [東海地震関連情報](#)
- [噴火警報・予報](#)



関東甲信地方週間天気予報

平成27年9月16日10時40分 気象庁予報部発表

予報期間 9月17日から9月23日まで

向こう一週間は、前線や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨が降るでしょう。

なお、小笠原諸島では、18日から19日は台風第20号の影響を受けて、大荒れとなるおそれもあります。

最高気温・最低気温ともに平年並か平年より低く、明日は平年よりかなり低い見込みです。

降水量は、平年並か平年より多いでしょう。

地方週間天気予報は、地方予報区内の擾乱の推移、天気経過、防災事項などについて、地方の特性を加味した概況を示す。

1日2回発表（11時と17時）

府県週間天気予報

ア. 天気

発表日の翌日から7日先までについて、テロップ用天気予報用語で天気を表す。

ただし、**翌日と翌々日の天気**については、直前に発表された「天気予報」から、予め定めた1次細分区域の**天気**が入る。

イ. 降水確率

対象区域内の各地点に**1日(24時間)1mm以上**の降水がある確率の平均値を、発表日の翌々日から7日先まで1日ごとに示す。予報値は10%単位。

ウ. 気温

対象地点における**日最高気温及び日最低気温**を、発表日の翌々日から7日先まで、1℃単位で表す。各予報値には、**予報の予測範囲(上方及び下方範囲)**を1℃単位で示す。気温の実況がこの予測範囲に入る確率は**およそ80%**。

神奈川県週間天気予報

10月7日11時

予報期間

10月8日から10月14日まで

天気

神奈川県

8日	晴れ	(100)
9日	晴れ時々曇り	(101)
10日	曇り後一時雨	(212)
11日	雨後曇り	(313)
12日	晴れ時々曇り	(101)
13日	晴れ時々曇り	(101)
14日	晴れ時々曇り	(101)

降水確率

神奈川県

/// 10 60 70 10 10 10

最低気温

横浜

/// 16 18 18 16 16 16
(✓) (3) (3) (2) (2) (2) (2)
(✓) (1) (1) (2) (1) (1) (2)

最高気温

横浜

/// 25 23 22 24 23 23
(✓) (1) (2) (4) (2) (1) (1)
(✓) (2) (2) (1) (3) (2) (3)

上方範囲

下方範囲

工. 平年値

気温及び降水量の予報値が平年と比べてどの程度なのか容易に比較できるように、気温及び降水量の平年値を府県週間天気予報に含めて発表。

(ア) 気温の平年値

かな漢字電文では発表日から4日先の日の日最高気温及び日最低気温の平年値を0.1℃単位で表す。

XML電文では発表日の翌日から7日先まで1日ごとの平年値を0.1℃単位で表す。

(イ) 降水量の平年値

かな漢字電文では発表日の翌日から7日先までの7日間降水量の平年並の範囲を小数第1位を四捨五入して1mm単位で表す。

XML電文では同期間の7日間降水量の階級区分値を、平年値をそのまま用いて0.1mm単位で表す。

平年値」

横浜 降水量の合計 : 少ない ≤ 21mm < 平年並 ≤ 55mm < 多い

最低気温 : 16.0℃ , 最高気温 : 22.2℃

日別信頼度」

神奈川県

／／ B C A A A=

才. 信頼度（予報の確度を表す情報）

信頼度は、3日目以降の降水の有無の予報について「予報が適中しやすい」と「予報が変りにくい」ことを表す情報で、A、B、Cの3段階で表します。

信頼度	内容
A	確度が高い予報 <ul style="list-style-type: none">● 適中率が明日予報並みに高い(降水有無の適中率:平均86%)● 降水の有無の予報が翌日に日変わりする可能性がほとんどない
B	確度がやや高い予報 <ul style="list-style-type: none">● 適中率が4日先の予報と同程度(降水有無の適中率:平均72%)● 降水の有無の予報が翌日に日変わりする可能性が低い
C	確度がやや低い予報 <ul style="list-style-type: none">● 適中率が信頼度Bよりも低い(降水有無の適中率:平均56%) もしくは● 降水の有無の予報が翌日に日変わりする可能性が信頼度Bよりも高い

平年値]

横浜 降水量の合計 : 少ない ≤ 21mm < 平年並 ≤ 55mm < 多い

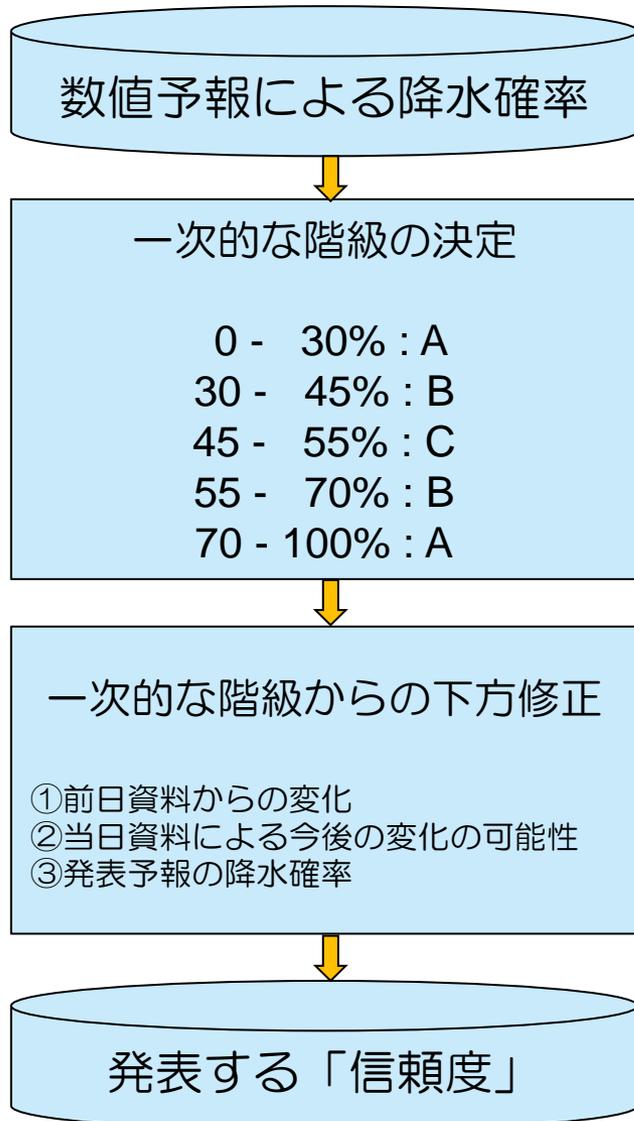
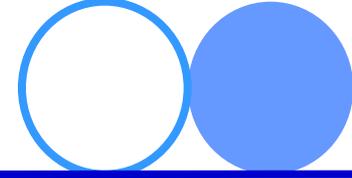
最低気温 : 16.0℃ , 最高気温 : 22.2℃

日別信頼度]

神奈川県

// B C A A A =

信頼度の算出方法の概要



算出方法(降水確率にベースを置いた算出方法)

- 最新初期値の数値予報の降水確率予測をベース
- これに、次の点を加味して算出
 - ①前日資料からの変化
 - ②当日資料による今後の変化の可能性
 - ③発表予報の降水確率の値

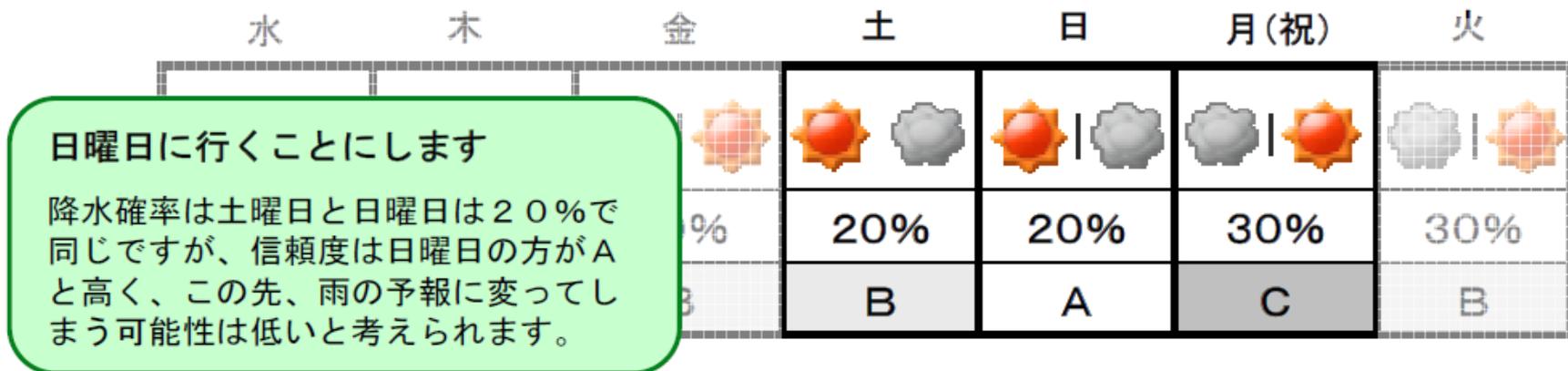
注目しているのは、

- 最新初期値までの降水確率予測の変化
- 降水確率予測の統計的な変化特性

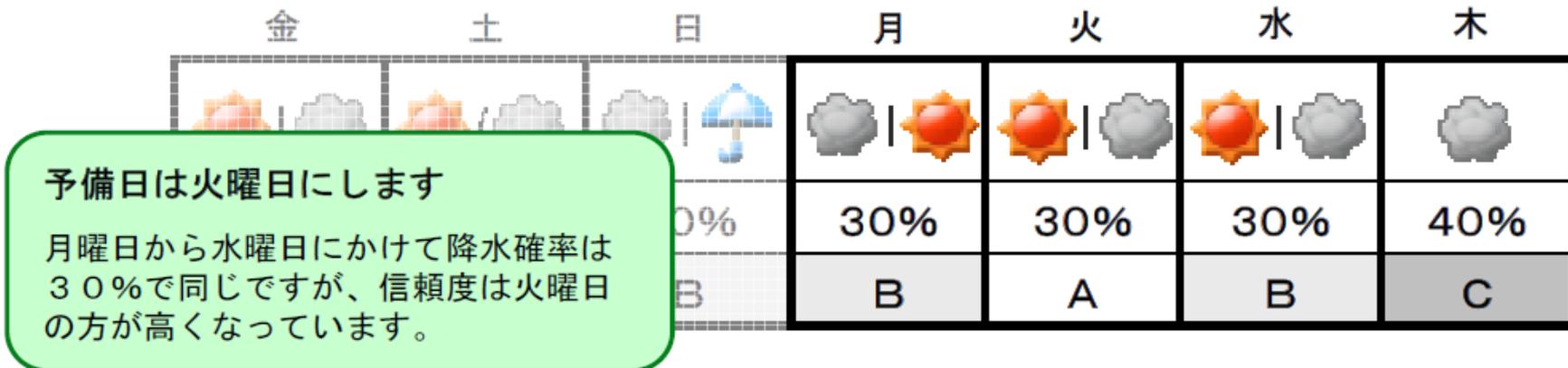
詳細については、平成19年度量的予報研修テキストを参照。

信頼度の利用例

その1 今度の連休中に野外のテーマパークに出かけたいのですが、いつにするか、今日の週間天気予報を参考に決めたいと思います。



その2 日曜日に予定している運動会が雨で延期となりそうです。予備日をいつにするか、今日の週間天気予報を見て考えています。



- 概ね3日先～1週間以内に、社会的に大きな影響を与えるような顕著な現象が予想された場合などに発表
 - 高温・低温・寒波（大雪）・大気不安定・低気圧の発達など
- 梅雨の時期に関する気象情報
 - 当日までの天候経過及び数日から1週間程度の天候の予想に基づいて速報的に発表する。
 - 後日、実際の天候の経過を考慮して、梅雨の入り・明けの時期を確定している（事後検討）。

発達する低気圧と強い寒気に関する全般気象情報 第1号
平成26年12月29日15時00分 気象庁予報部発表

（見出し）

31日から1月1日にかけて、低気圧が発達しながら本州付近を通過し、その後日本の上空に強い寒気が流れ込み、1月3日頃にかけて冬型の気圧配置が強まる見込みです。このため、北日本から西日本の日本海側を中心に、大雪や荒れた天気となるおそれがあります。

（本文）・・・

● 週間天気予報解説資料

① アンサンブル資料の解釈と 天気の見通し

② 防災事項

③ 明後日予報について

④ 全般週間天気予報（案）

毎日10時頃発表

本資料は、高度利用者（気象予報士、キャスターなど）向けのプロダクトです。

1. アンサンブル資料

- アンサンブル(ENS)：台風第23号については台風進路予報に従う。期間のはじめは本州付近でトラフが深まり、北・東日本の太平洋側では湿った気流の影響を受ける所があるが、高気圧に覆われて晴れる所が多い。期間の中頃は、台風第23号の影響を受けて、北・東日本では曇りや雨の所があるが、西日本は概ね晴れる。期間の終わりは西谷となり、全国的に曇りがりやすくなる。沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れる日が多いが、期間の終わりは湿った気流の影響で曇る所もある。
- 500hPa基本場（週間予報支援図）：状況は、中国東北区がトラフで、北日本は負偏差だが、東日本から沖縄・奄美にかけては正偏差。予報期間は、北緯50～60度帯がリッジで広く正偏差。一方、北日本～日本の東にトラフ、中国東北区には寒冷渦が位置して、日本付近は逆位相の場となり、全国的に負偏差となる。

- 7日：5700m付近の寒気を伴ったトラフがゆっくり東日本付近に進む。台風第23号が小笠原諸島の東を北へ進む。一方、千島近海を高気圧が東へ移動するが、北日本から日本海方面へ張り出す。北・東日本では東からの湿った気流や寒気の影響で曇る所もあるが、西日本や北・東日本の日本海側の地方では晴れる所が多い。
- 8～9日：トラフは日本の東へ抜けて、北日本へ北上する。トラフの後面にはリッジ位相が本州付近に進むが、次のトラフが中国東北区に進む。台風第23号は日本の東のトラフの東側を北上して、温帯低気圧に変わりながら北海道地方付近へ進む。北日本では雨の降る所が多くなる。西・東日本では西日本を中心に晴れる所が多いが、日本海側の地方では、寒気移流の影響で曇る所もある。
- 10～11日：オホーツク海に進んだトラフは浅まりながら北上する。5520mや5700mのトラフが中国東北区や黄海に進み、日本付近は西南西の流れが明瞭となる。地上では、日本付近は気圧の谷となり、台風から変わった低気圧が浅まりながらオホーツク海を北へ進み、沿海州付近では低気圧が発生する。また、東シナ海では前線が顕在化して西・東日本の南へのびだす可能性もある。全般に曇りがりやすく、10日は北日本では台風から変わった低気圧の影響が残る、雨の降る所もある。

- 沖縄・奄美：高気圧に覆われて概ね晴れるが、期間の終わりは前線や湿った気流の影響で曇る所もある。

- ・ アンサンブル(ENS)/27メンバー：11日に予想される低気圧の位置は、沿海州付近が全体の約6割、サハリン付近が全体の約1割。
- ・ スプレッド：昨日資料と比べて、7日目は縮小したが、他は同じか拡大した。特定高度線は、期間の終わりは、5400mのトラフの深さや位相に、5700mはトラフの位相にバラつきが大きくなる。
- ・ 降水頻度分布：昨日資料と比べて、8日は北・東日本の太平洋側で、9日は北日本で拡大した。
- ・ 予想T850時系列：北日本は、期間のはじめは負偏差で、その後は平年並から正偏差。東日本は負偏差だが、期間の終わりは正偏差に転じる。西日本と負偏差。沖縄・奄美は、平年並から負偏差で推移する。

2. 防災事項等

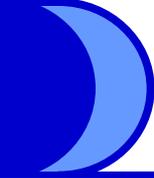
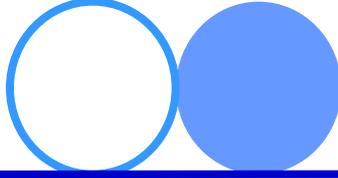
- ② 8～9日頃は、北日本では台風第23号の影響を受ける所がある。また、台風第23号の影響で、小笠原諸島では期間の前半、東・北日本の太平洋側では期間の中頃は、波が高くなるおそれがある。

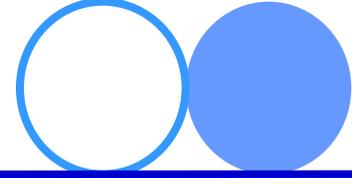
3. 明後日予報（3時40分発表の短期予報解説資料も参照）

- ③ 500hPa5700mから5820mにかけての流れの蛇行が次第に大きくなり、6日夜には東日本付近に切離した寒冷渦を生じて動きが遅くなる。南島近海を北上する大型の台風第23号とこの寒冷渦の結びつきが始める。北日本から西日本にかけては、黄海から千島の東にかけて連なる高気圧の圏内で晴れる所が多い。ただし、5日に東海道沖を西進した気圧の谷が西日本の南海上に進み、また、東日本と東北の太平洋側には湿った東よりの気流が続くため、東北から西日本の太平洋側では曇りや一時雨の所もある。
- ・ 南西諸島は亜熱帯高気圧の圏内で晴れる。

4. 全般週間天気予報（案）

- ④ 北日本は、期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れるが、後半は気圧の谷や寒気の影響で曇りがりやすく、雨の降る所もある。東・西日本は、高気圧に覆われて晴れる日が多いが、期間の終わりは気圧の谷や湿った気流の影響で曇りがりやすい。
- 沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れる日が多いが、期間の終わりは湿った気流の影響で曇る所もある。
- ・ 最高気温・最低気温ともに、北日本は平年並か平年より高い日が多い。東・西日本は、平年並か平年より低い日が多いが、期間の終わりは平年より高い所がある。沖縄・奄美は、平年並か平年より高い。

- 
- 
- 週間天気予報関連のプロダクト
 - 週間アンサンブル予報
 - 週間天気予報で使う予測資料
 - 週間天気予報の予測精度



アンサンブル予報とは、複数の数値予報の集合（アンサンブル）を統計的に処理し、単独の数値予報よりも確からしい予報を得る手法である。

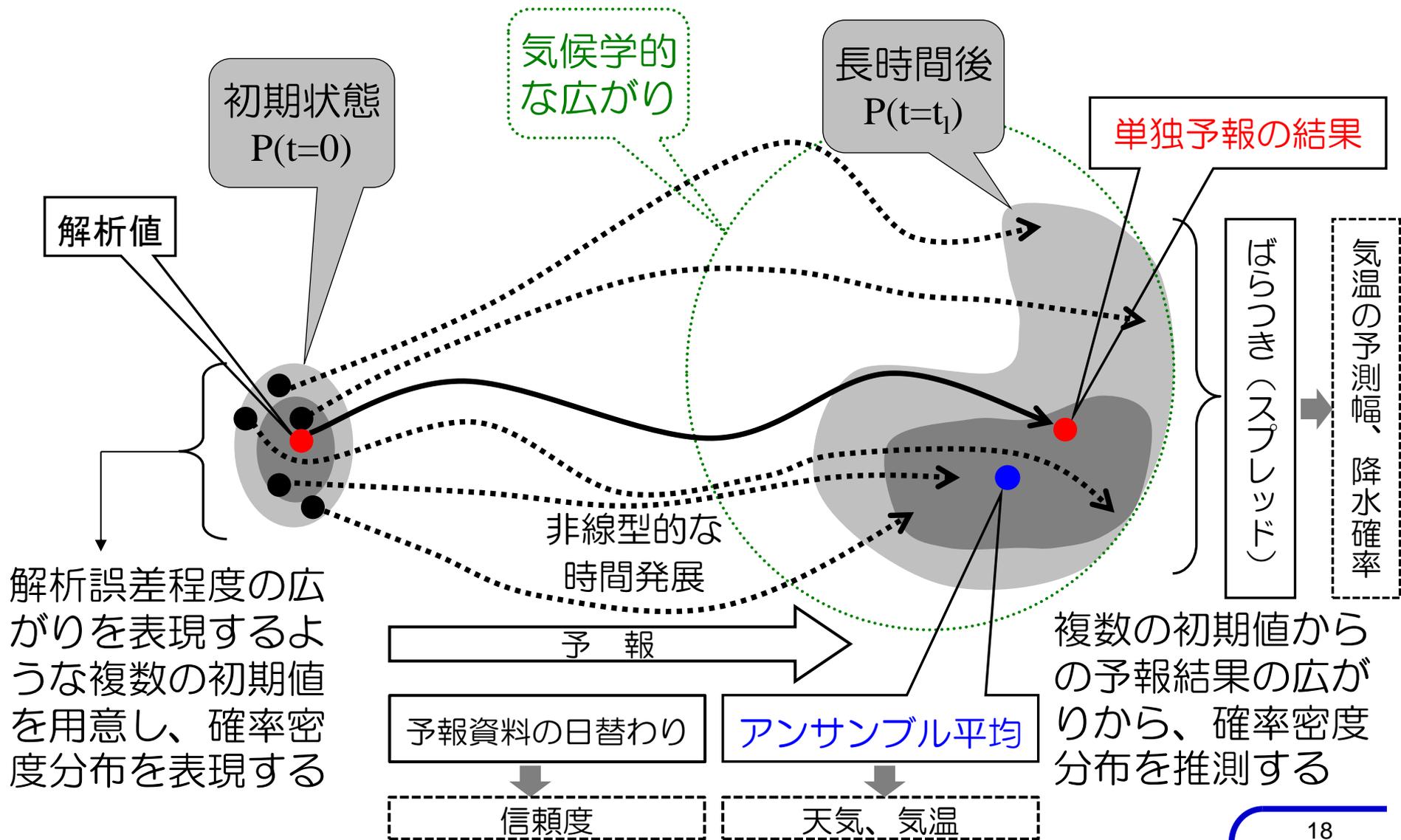
また、集合から導き出される度数分布を確率分布と見なすことで、単独の数値予報では得られない予報誤差を予測する手法でもある。

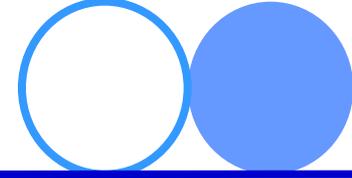
なぜアンサンブル予報が必要なのか

- カオス的性質を持つ大気の予測を行うと、完全モデル* (perfect model) をもってしても、解析誤差が指数関数的に増大してしまうことがある
 - その誤差がたとえわずかでも、意味のある予報が得られる予報時間は有限である（現状だと通常の天気予報は平均的には6～7日が限度）
- 観測や解析に誤差はつきもの
 - 予報には必ず誤差が含まれることから、本来予報はその誤差を考慮して利用されるべき
 - 大気の初期状態はある存在確率（probability distribution function, PDF）でもって把握されるべきである

* 完全モデル：正しい初期値を与えれば自然を完全に予測できる予報モデル

アンサンブル予報の概念図





メンバー

アンサンブル予報を構成している個々の予報 →現在は27個

コントロールラン

解析値から得られた初期値に人工的な誤差（摂動）を与えないで計算した数値予報

アンサンブル平均

全メンバーを平均して求めた予測結果 → 27メンバーの予測値の平均

スプレッド

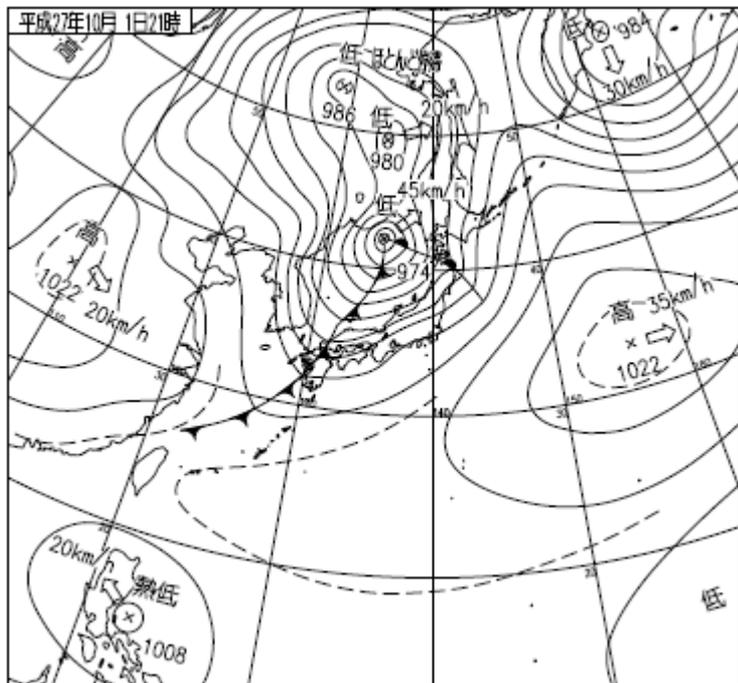
アンサンブル予報を構成しているメンバー間のばらつきの大さを示す指標

クラスター

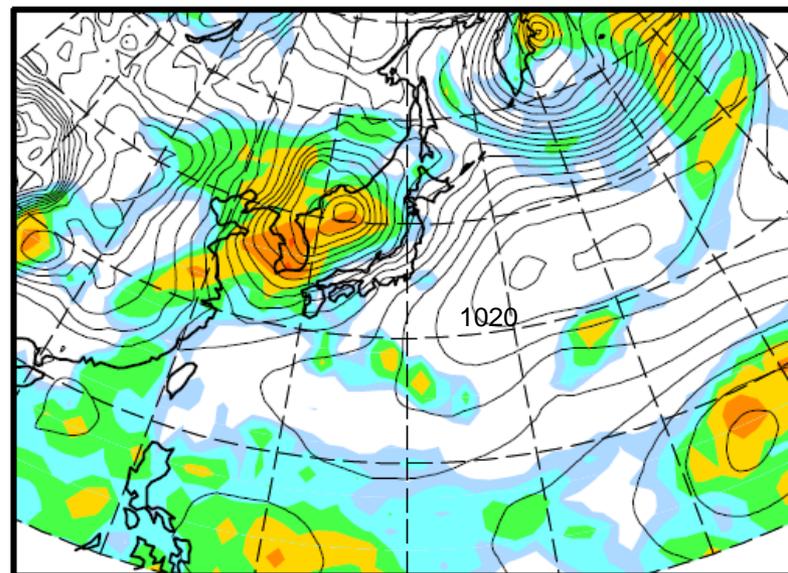
27メンバーを、クラスター分析により、予想結果が似ているもの同士を組み合わせることで5つのグループに分類している。分類したそれぞれのグループを“クラスター”と呼んでいる

急速に発達した低気圧の事例

2015年10月1日12UTCの
地上天気図



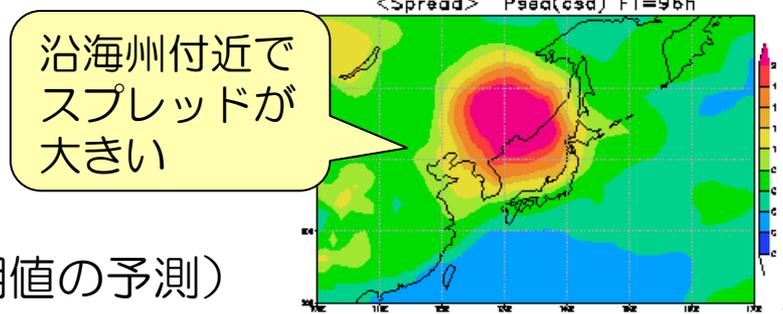
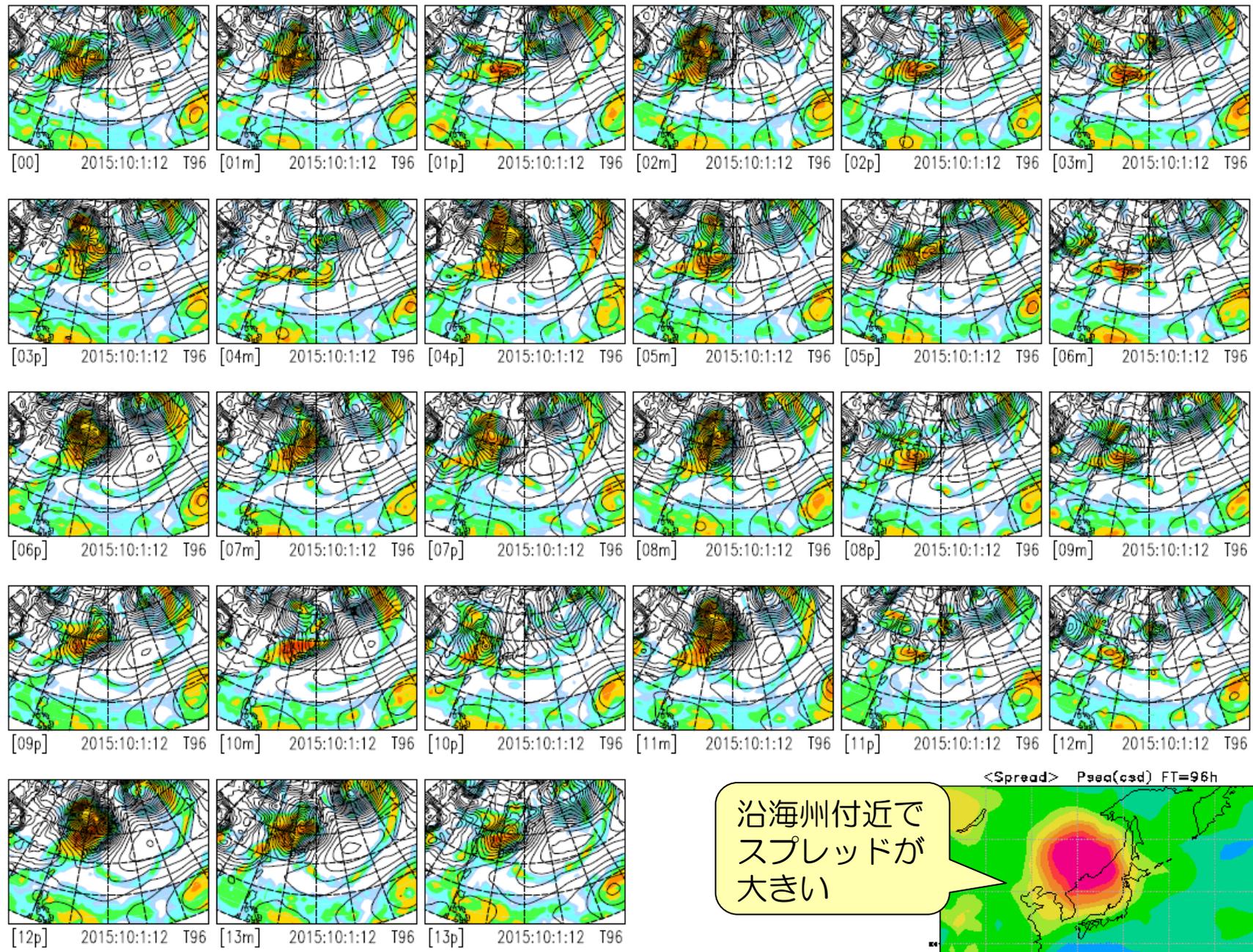
9月27日12UTC初期値の予測
(コントロールランの地上気圧)



[00] 2015:10:1:12 T96

日本海に、約990hPaの低気圧を予測

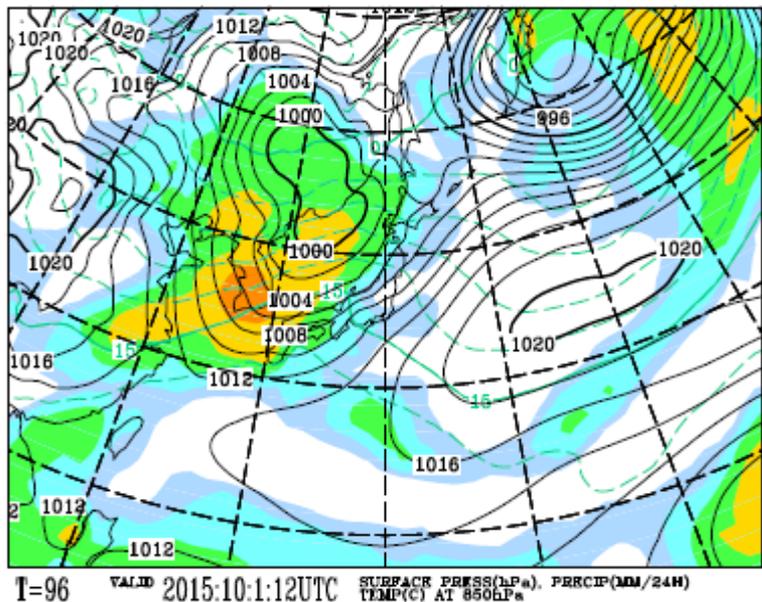
fd3 / init=2015.09.27.12UTC / Psea[hPa] & Rain[mm/24h]



27メンバーの予測 (9月27日12UTC初期値の予測)

アンサンブル平均の予測

アンサンブル平均の予測 (9月27日12UTC初期値の予測)



アンサンブル平均は、日本海北部から沿海州付近に低圧部を予測。低気圧の位置や深度にバラつきはあるが、台風第21号から変わった低気圧が発達しながら日本海に進む予測は確度が高いと判断できる。

○防災事項

期間の中頃（1～2日）は、発達する低気圧や前線の影響で、西日本から北日本の広い範囲で荒れた天気となる可能性がある。

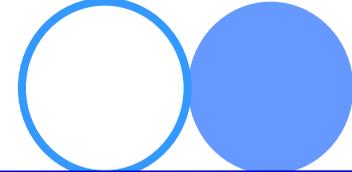
(9月28日の週間天気予報解説資料より抜粋)

発達する低気圧に関する全般気象情報

10月1日から3日にかけて、急速に発達する低気圧の影響で北日本を中心に非常に強い風が吹き、大荒れの天気となるおそれがあります。暴風や高波に警戒してください。

(9月29日 15時 気象庁予報部発表)

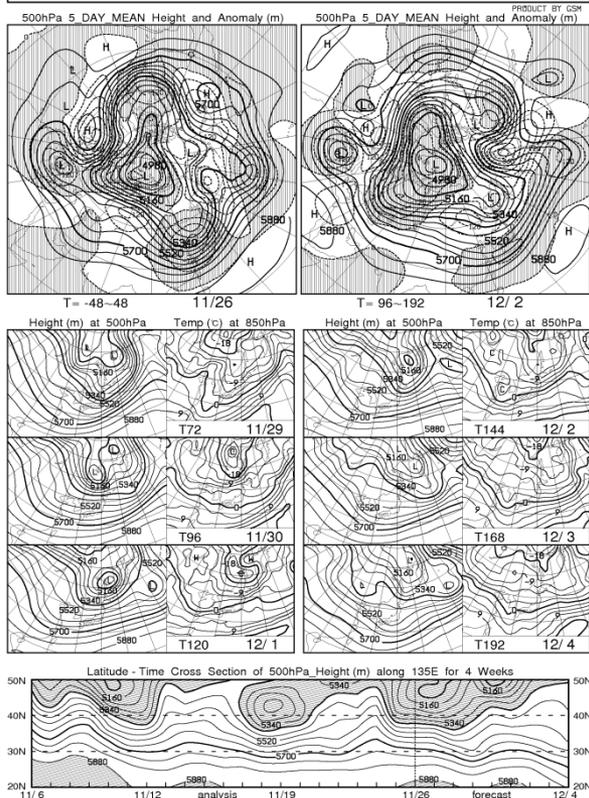
- 
- 週間天気予報関連のプロダクト
 - 週間アンサンブル予報
 - 週間天気予報で使う予測資料
 - 週間天気予報の予測精度



I	週間予報支援図	FXXN519
II	週間予報支援図（アンサンブル）	FZCX50
III	週間アンサンブル予想図	FEFE19

I 週間予報支援図

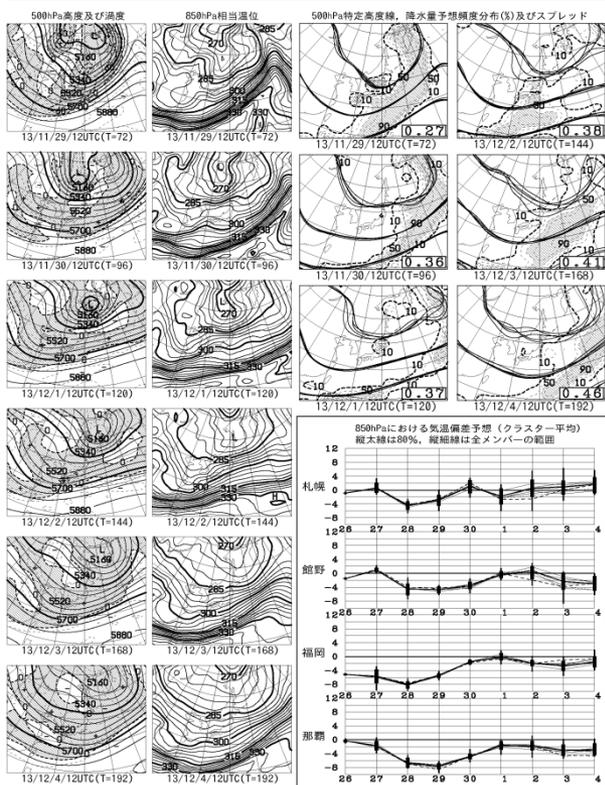
週間予報支援図 2612UTC NOV 2013



単独モデルから作成

II 週間予報支援図 (アンサンブル)

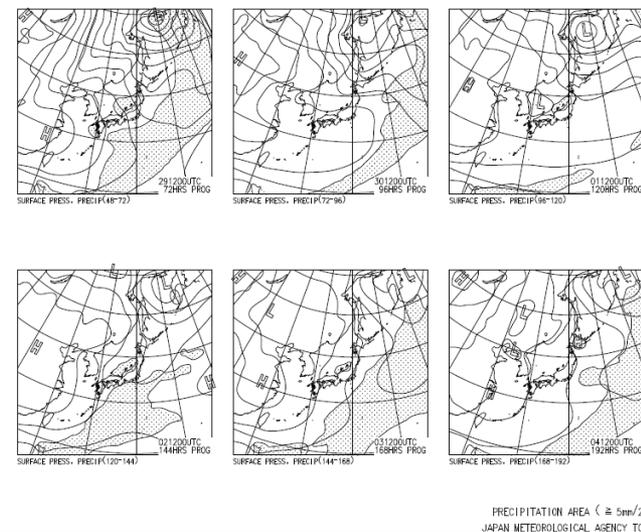
週間予報支援図 (アンサンブル) 2013年11月26日12UTC



アンサンブルモデルから作成

III FEFE19 (週間アンサンブル予想図)

FEFE19 261200UTC NOV 2013 ENSEMBLE PREDICTION CHART



※週間アンサンブルモデル予想値に基づいた資料

週間予報支援図 (アンサンブル) 2013年11月26日12UTC

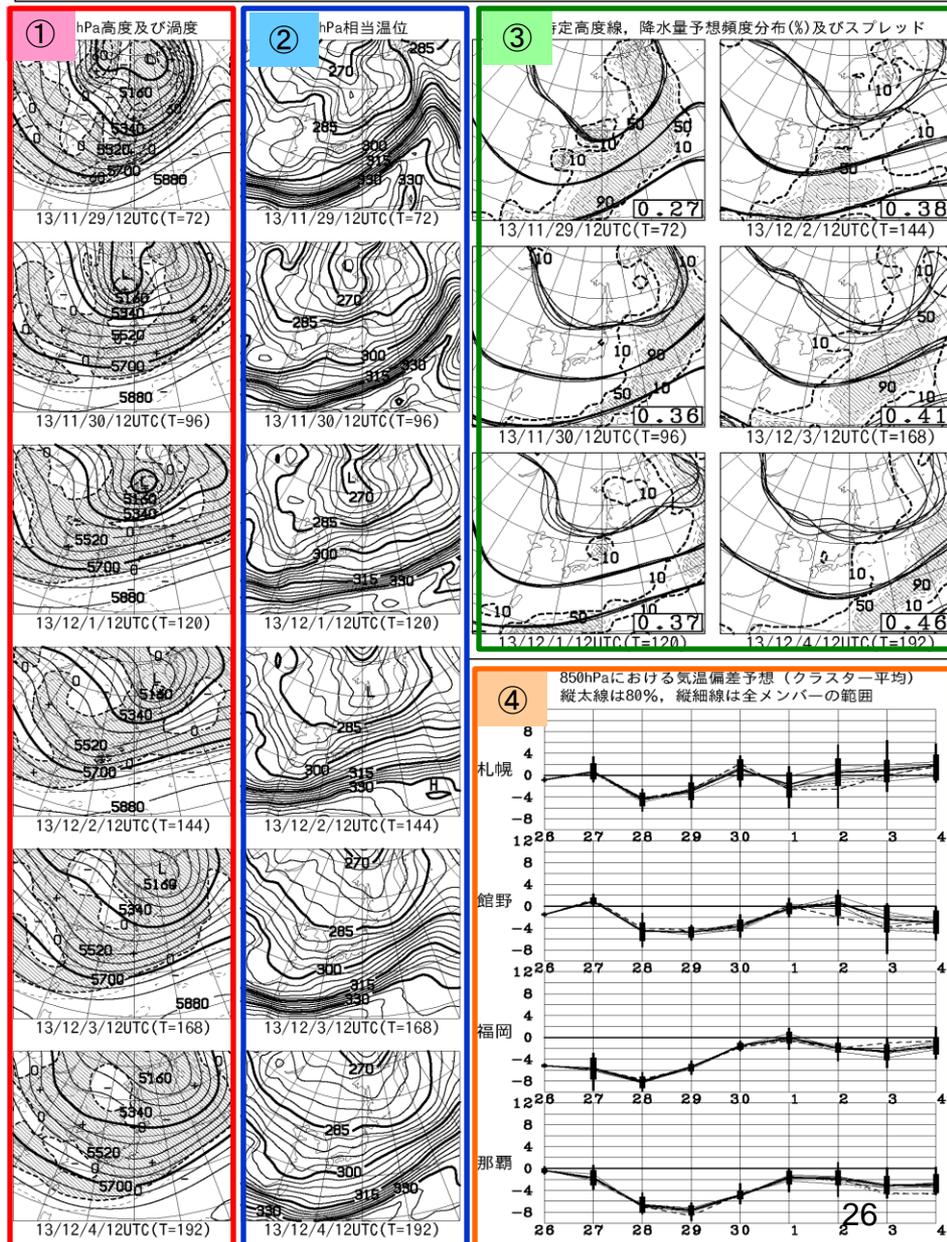
●週間予報支援図 (アンサンブル) (FZCX50)

①500hPa高度及び渦度
(左列)

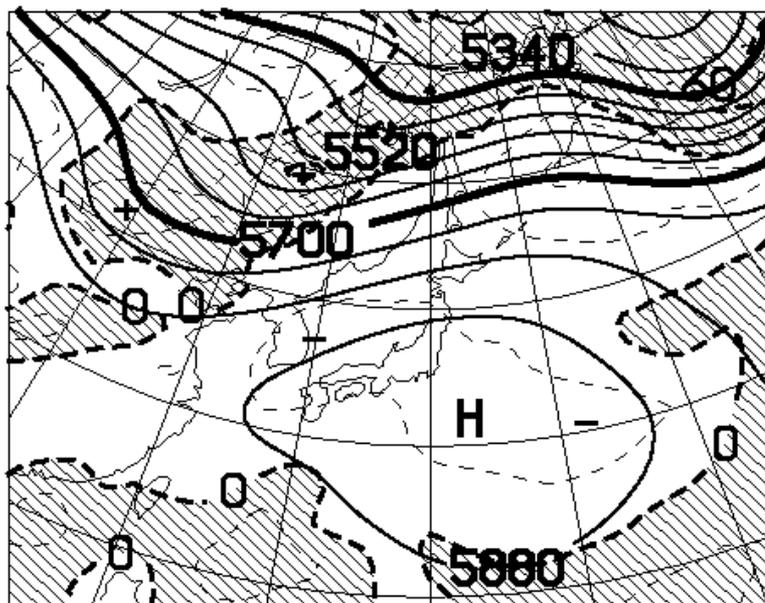
②850hPa相当温位
(中列)

③500hPa特定高度線、
降水頻度分布、スプレッド
(右上)

④850hPa気温時系列
(右下)



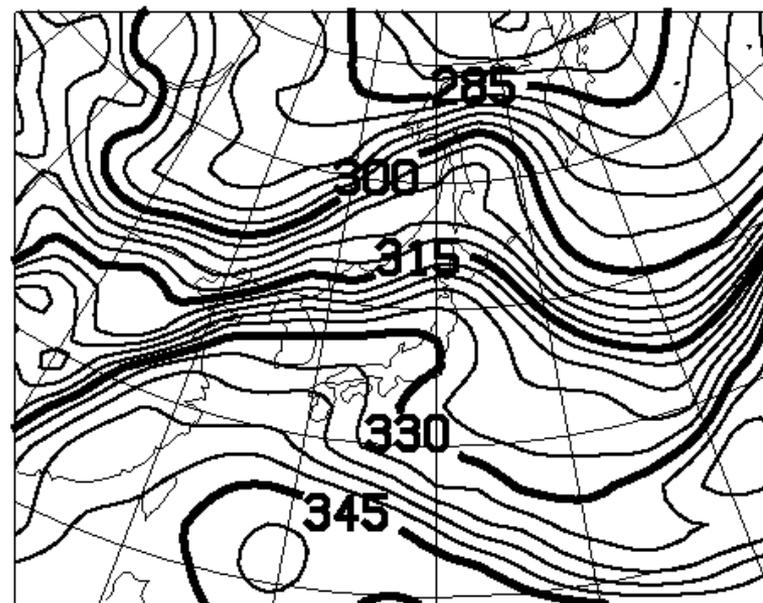
アンサンブル平均



13/10/7/12UTC (T=96)

500hPa高度及び渦度

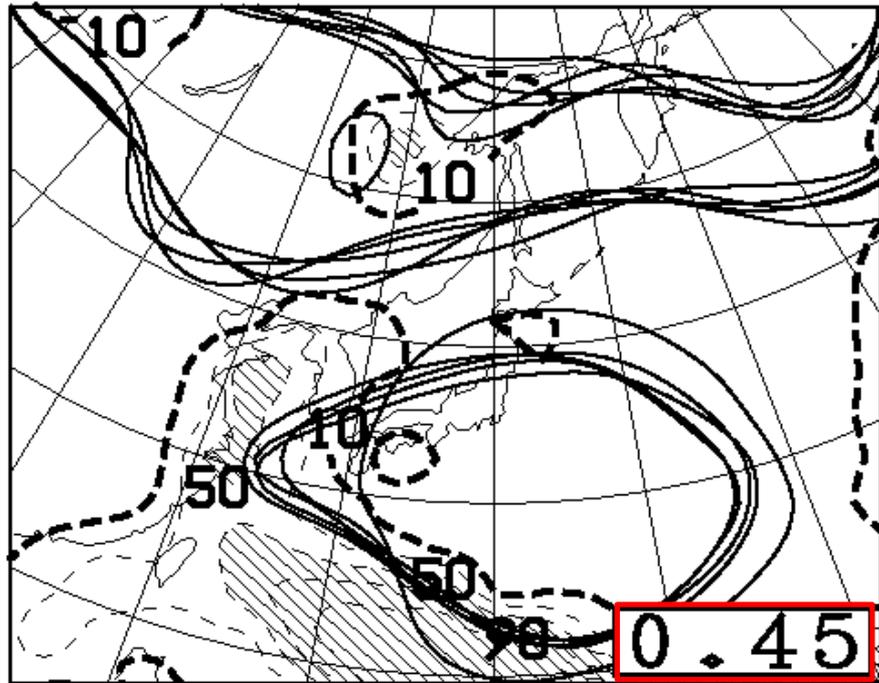
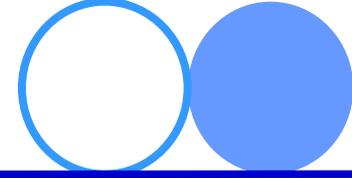
大気の大まかな流れやリッジ・
トラフの動きなどを追跡し、高・
低気圧の動向を検討する。
前の予測との違いにも注目する。



13/10/7/12UTC (T=96)

850hPa相当温位

前線の動向や活動度など
について検討するとともに、
大雨を示唆する「相当温位
が高い領域」等を把握する。



13/10/7/12UTC (T=96)

500hPa特定高度線

(各クラスター平均5400m, 5700m, 5880m)

- トラフの位置や太平洋高気圧の動向をキーにして、**予測のばらつきをチェック**する。

降水頻度分布

(全メンバーのうち 5mm以上 の降水量を予想しているメンバーの割合)

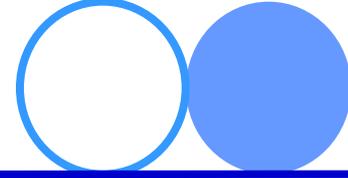
- 降水の可能性が高いエリアを確認する。

スプレッド

(年々変動で規格化した全メンバーの500hPaスプレッド)

- 予報日ごとの**予測のばらつきを把握**する。

アンサンブル資料のばらつき等の確認

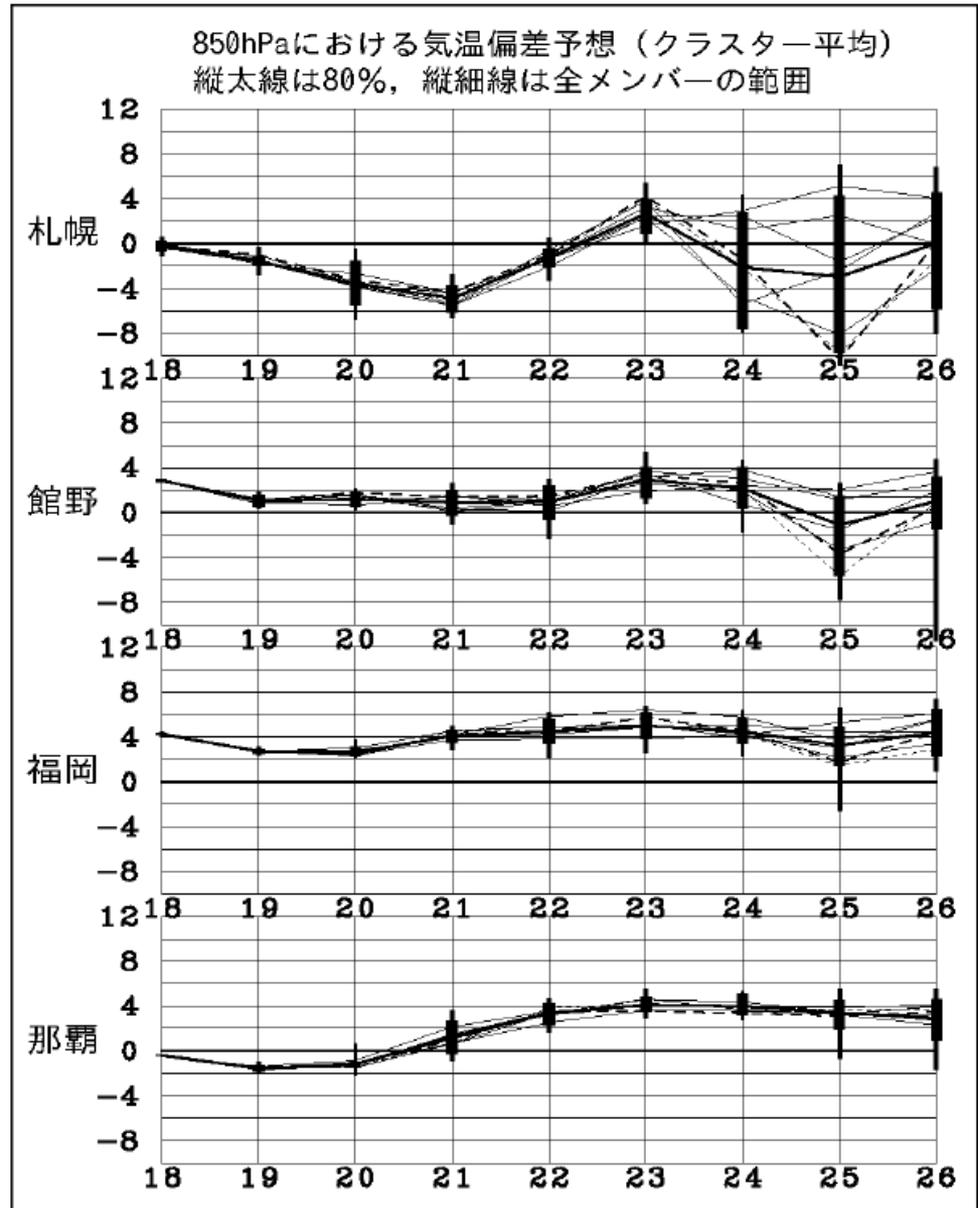


850hPa気温時系列

- 細実線：各クラスター平均
- 太実線：アンサンブル平均
- 点線：コントロールラン
- 破線：単独モデル (GSM)
- 細エラーバー：全メンバー
- 太エラーバー：80%のメンバー

↓
気温の予測幅

気温の経過や予測のばらつきを確認する。

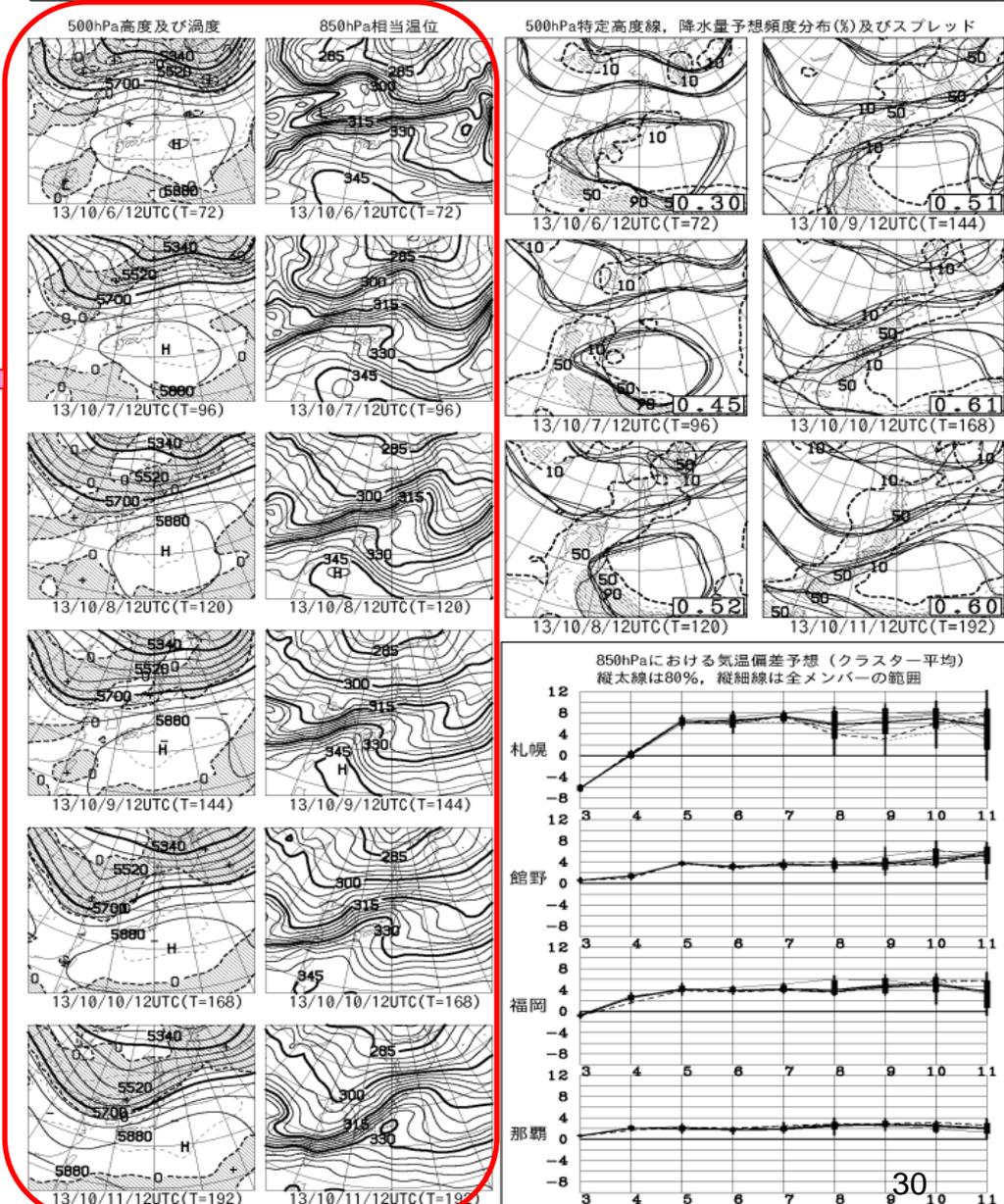
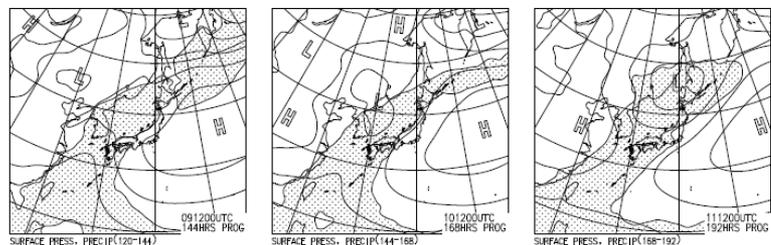
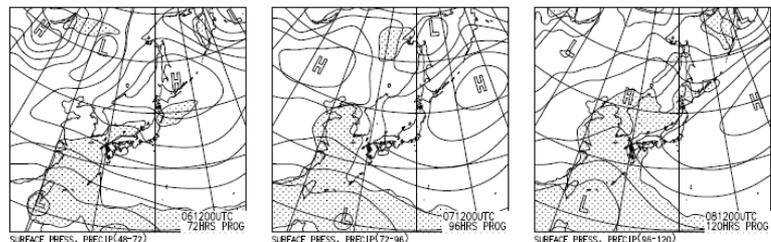


週間予報支援図 (アンサンブル) 2013年10月 3日12UTC

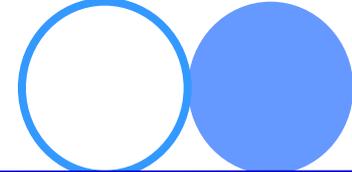
これに対応する地上予想図

週間アンサンブル予想図 (FEFE19)

FEFE19 031200UTC OCT 2013 ENSEMBLE PREDICTION CHART



週間アンサンブル予想図



週間アンサンブルモデルの
全メンバー平均図

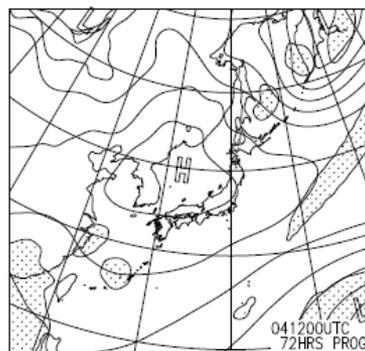
予想される地上天気図
のイメージを把握

等値線：海面更正気圧

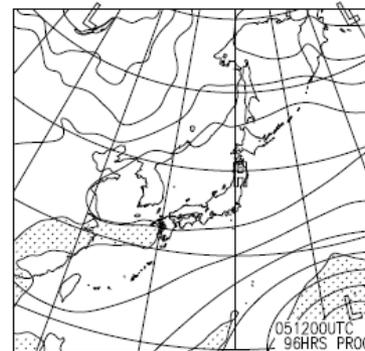
陰影域：24時間降水量が
5mm以上の範囲

FEFE19 011200UTC OCT 2015

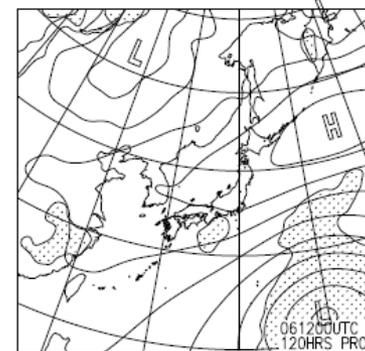
ENSEMBLE PREDICTION CHART



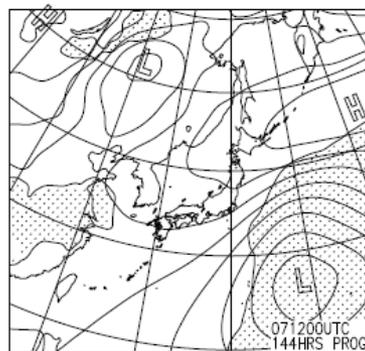
SURFACE PRESS, PRECIP(48-72)



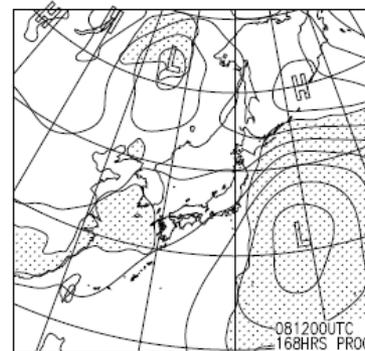
SURFACE PRESS, PRECIP(72-96)



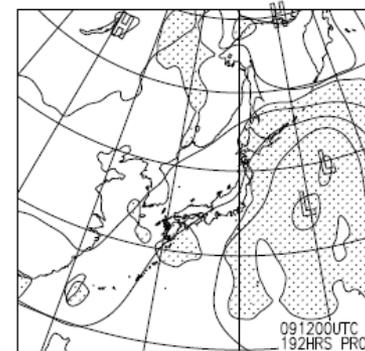
SURFACE PRESS, PRECIP(96-120)



SURFACE PRESS, PRECIP(120-144)



SURFACE PRESS, PRECIP(144-168)



SURFACE PRESS, PRECIP(168-192)

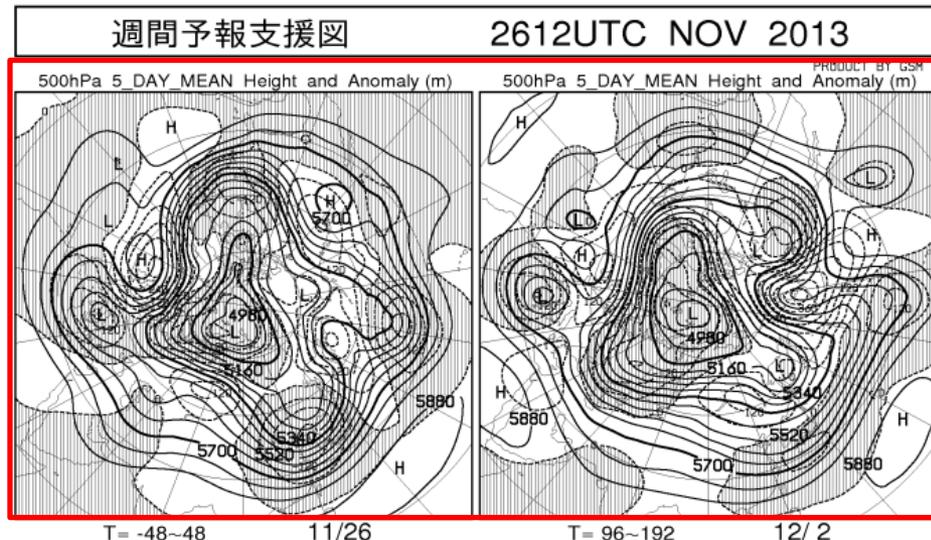
PRECIPITATION AREA ($\geq 5\text{mm}/24\text{h}$)
JAPAN METEOROLOGICAL AGENCY TOKYO

● 週間予報支援図 (FXXN519)

① 500hPa高度及び平年偏差
の5日平均場 (上段)

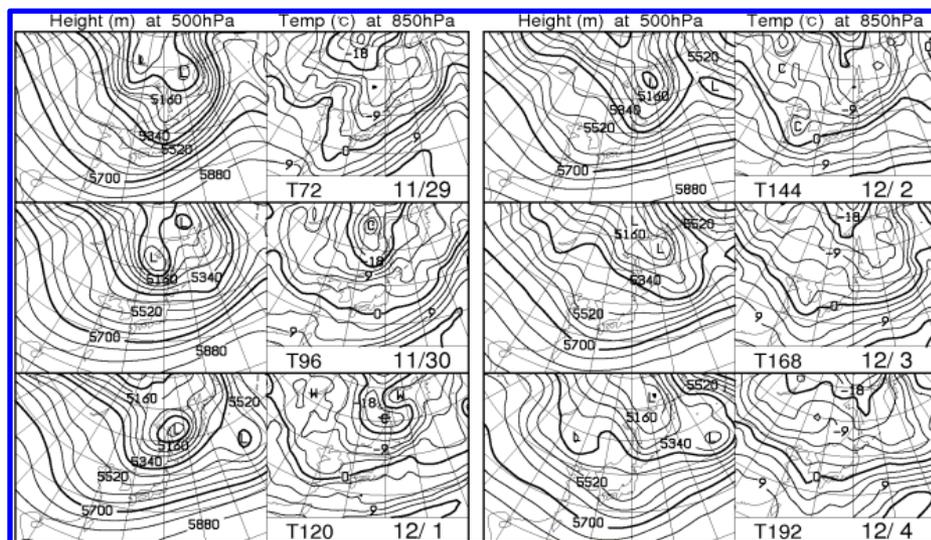
左：実況 (-48h~48h)

右：予報 (96h~192h)



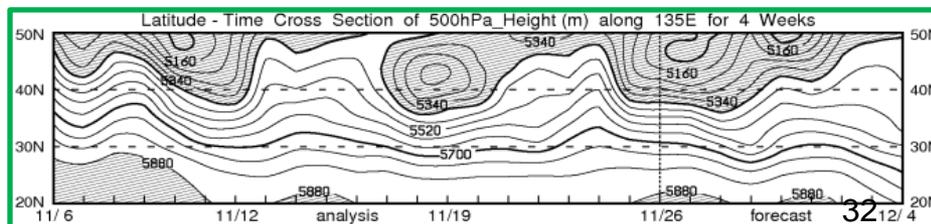
② 500hPa高度 (左図) と
850hPa気温 (右図)

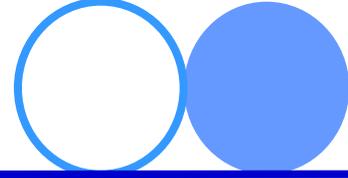
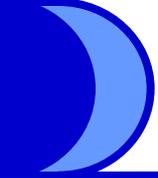
(中段)



③ 東経135度に沿った
500hPa高度の実況と予測

(下段)

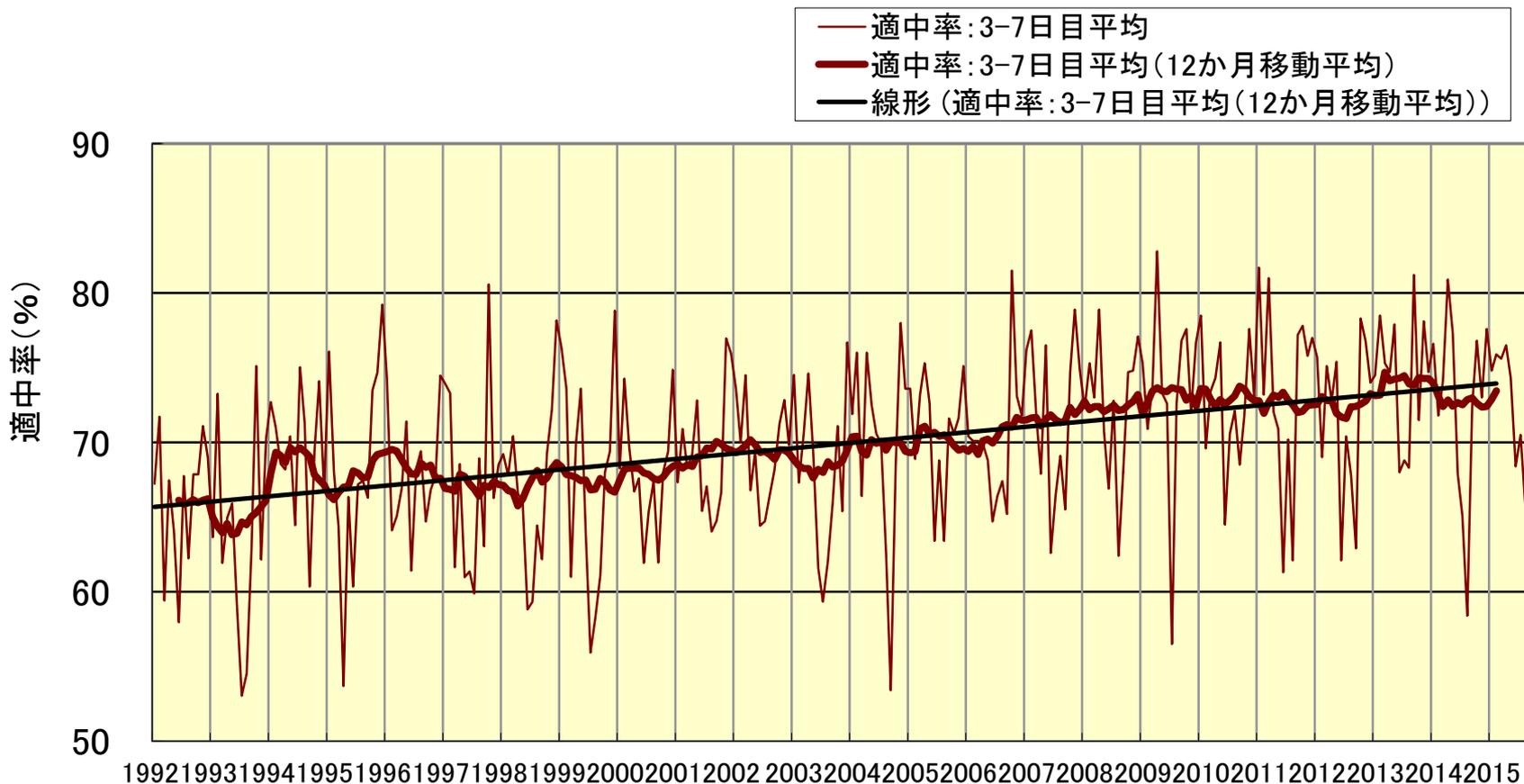




- 週間天気予報関連のプロダクト
- 週間アンサンブル予報
- 週間天気予報で使う予測資料
- 週間天気予報の予測精度

降水の有無の適中率の推移

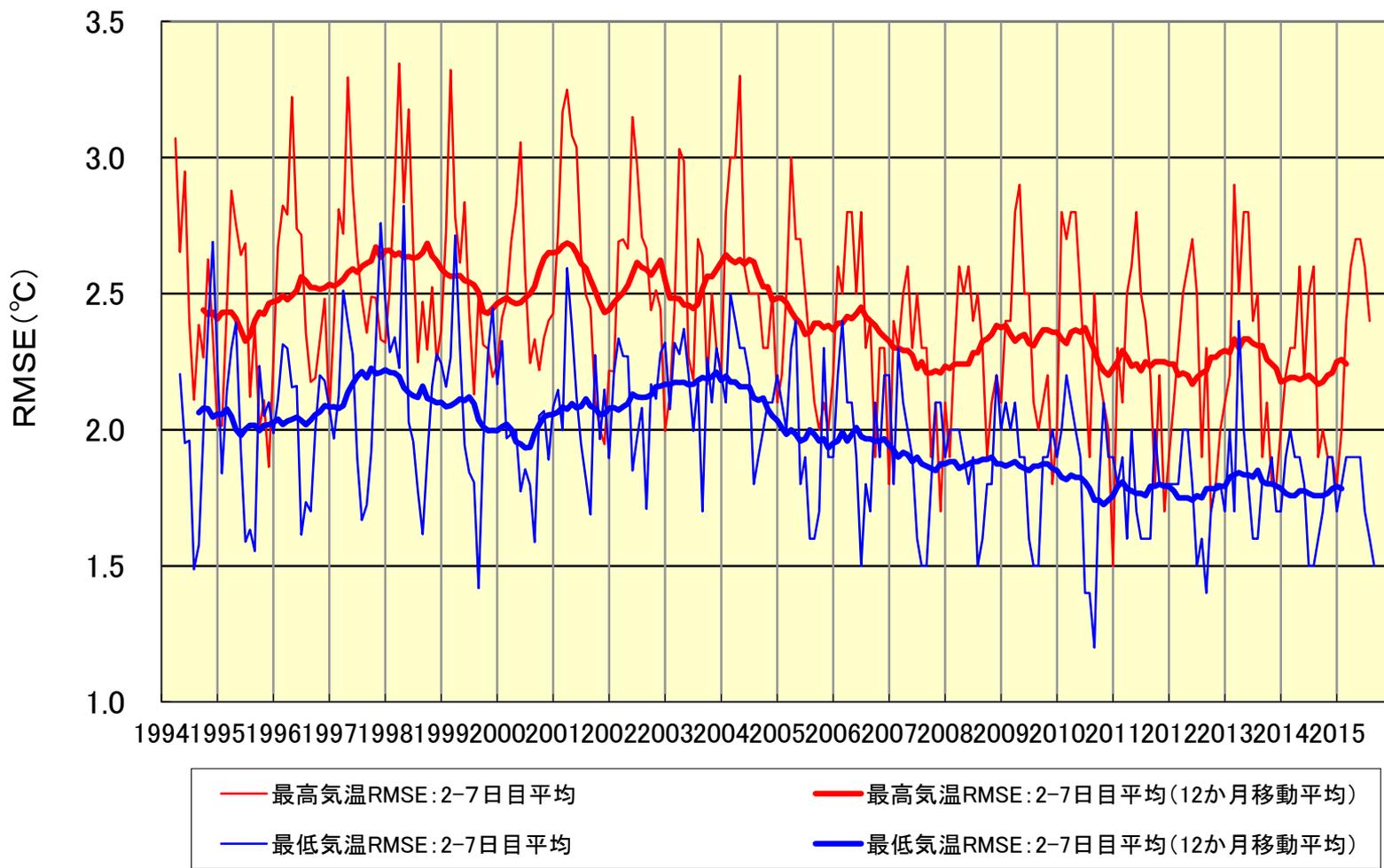
週間天気予報 降水の有無の適中率(全国平均)



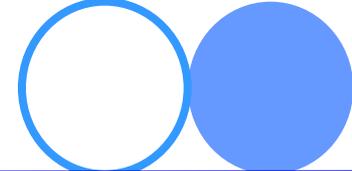
1992年1月~2015年8月

最高・最低気温予報誤差の推移

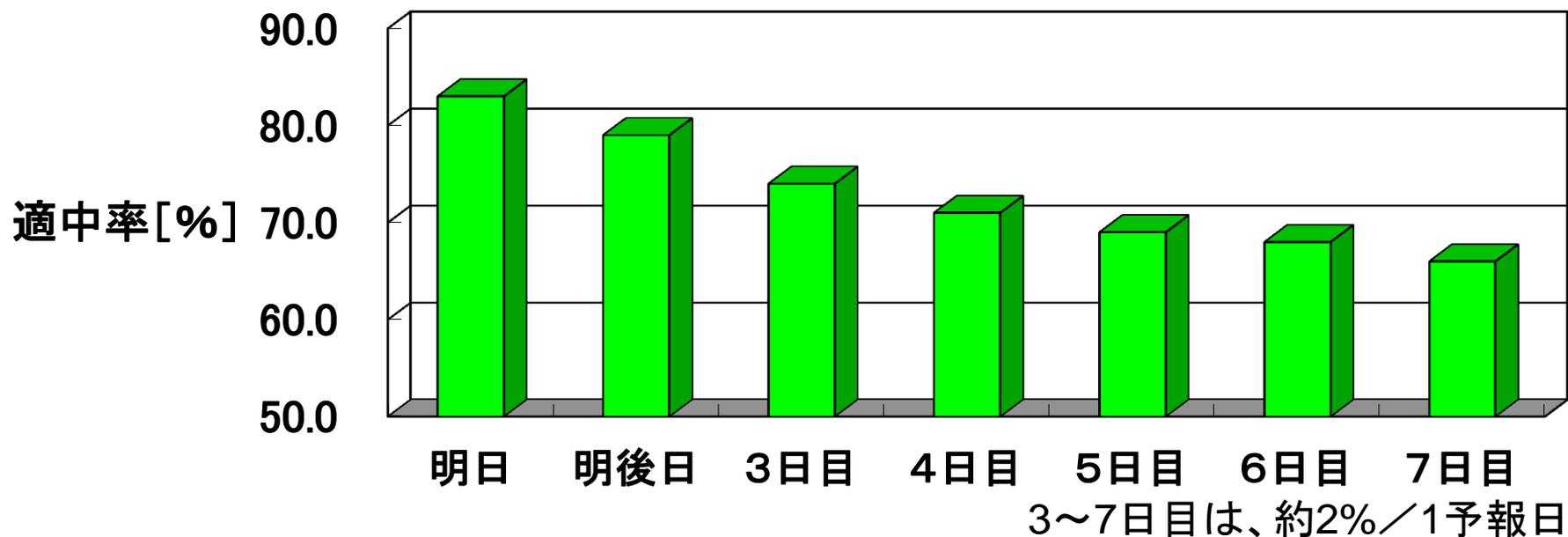
週間天気予報 最高・最低気温のRMSE(全国平均)



1994年4月～2015年8月

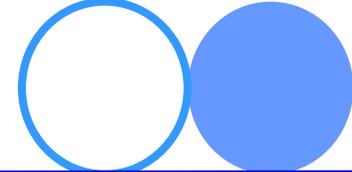


降水の有無の適中率（予報日別）

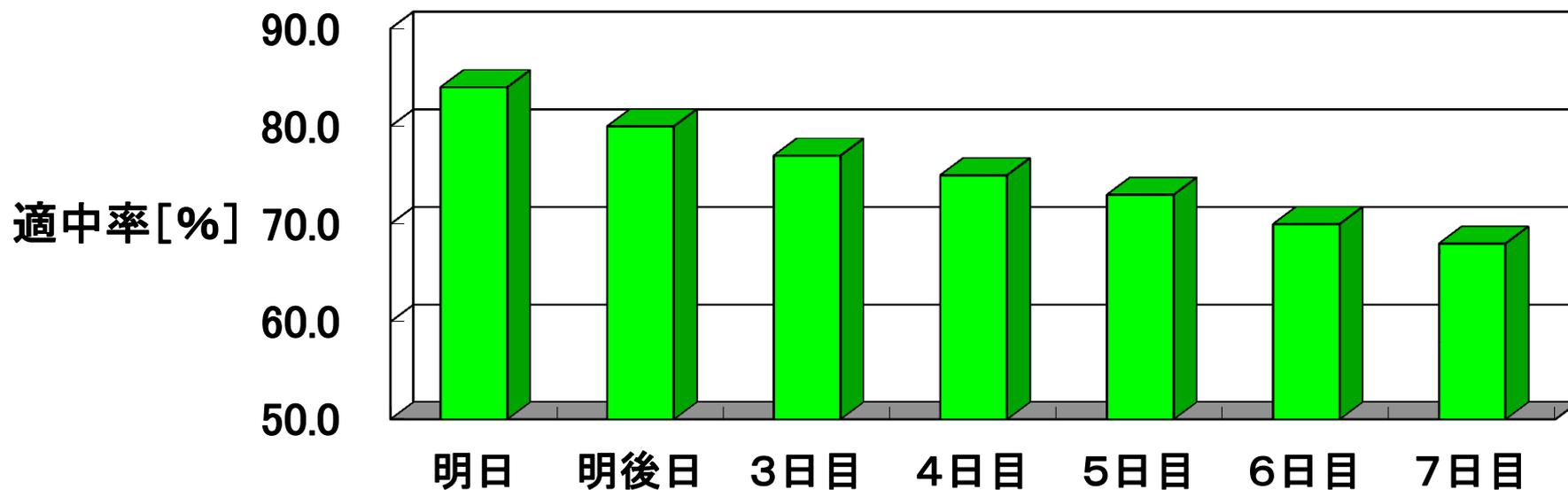


3~7日目：1992年~2013年データ（週間11時発表）による例年値

明日、明後日：1992年~2013年データ（短期17時発表）による例年値

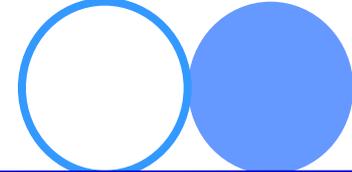


降水の有無の適中率（予報日別）

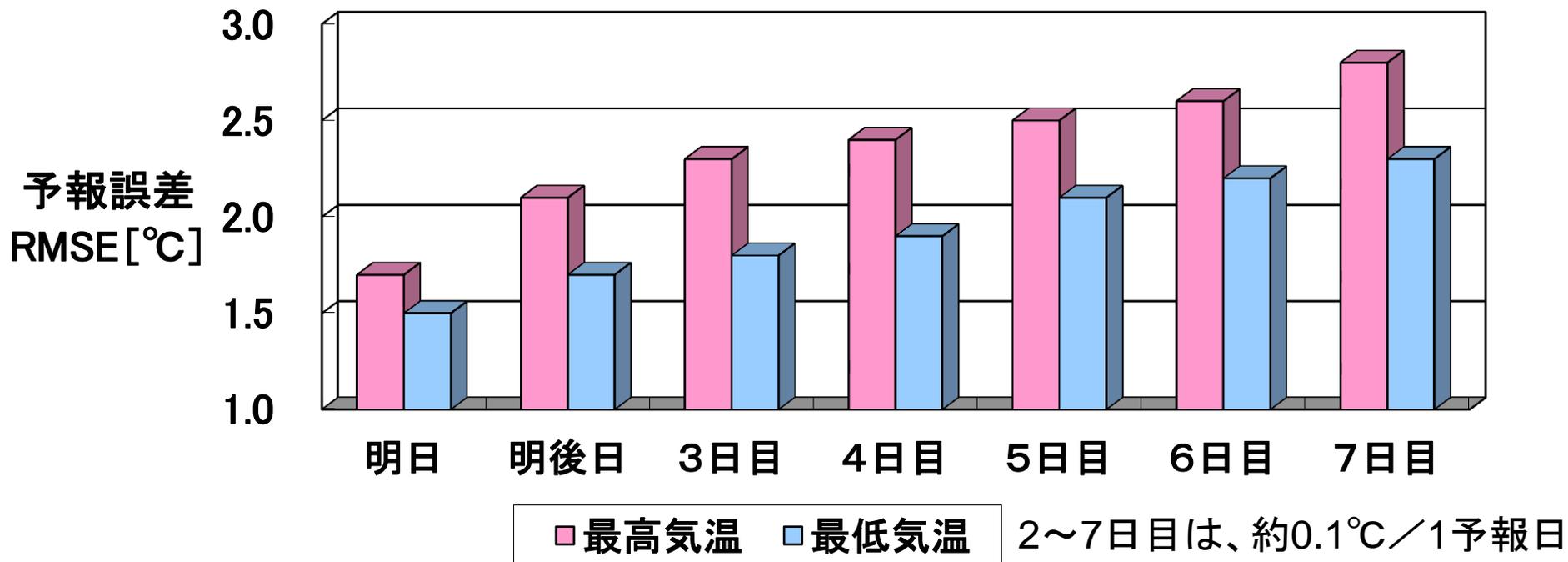


明日、明後日（短期17時発表）、3～7日目：（週間11時発表）

精度の例年値からみた特徴

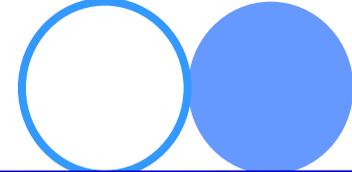


最高気温・最低気温の予報誤差（予報日別）

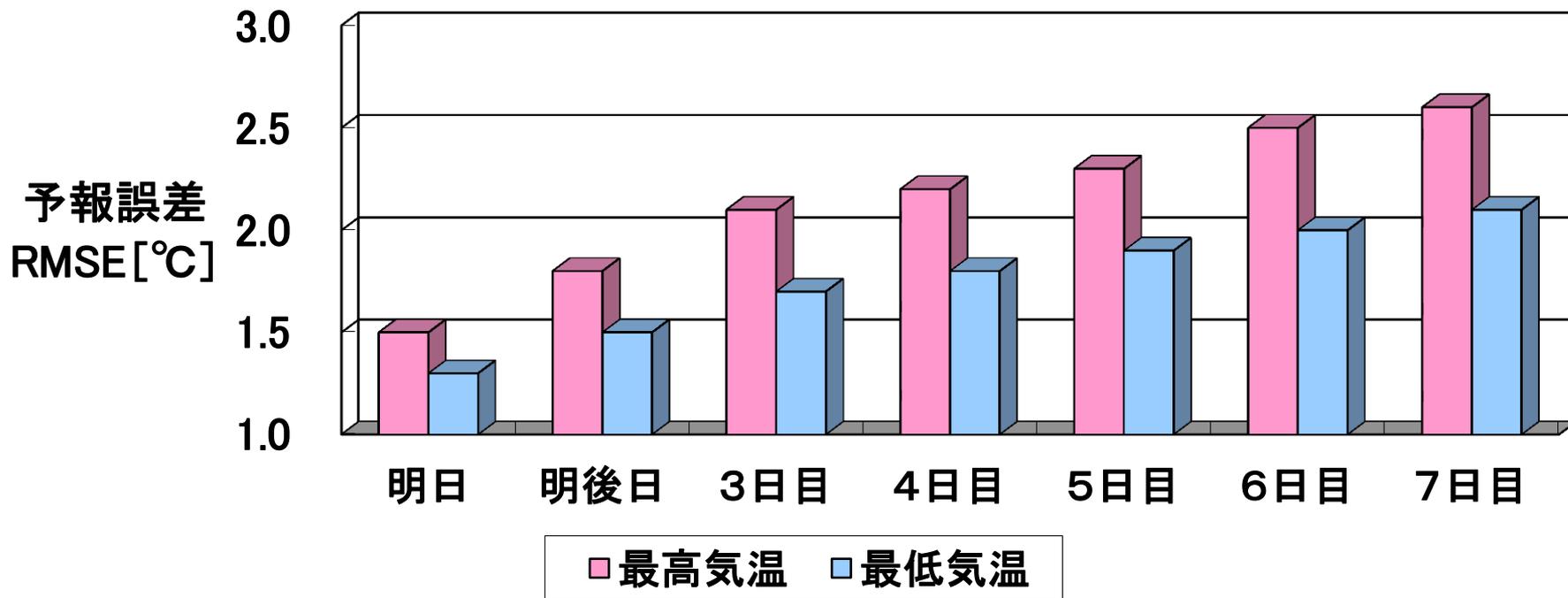


明後日～7日目：1995年～2013年データ（週間11時発表）による例年値

明日：1992年～2013年データ（短期17時発表）による例年値



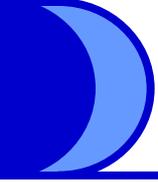
最高気温・最低気温の予報誤差（予報日別）



明日（短期17時発表）、明後日～7日目：（週間11時発表）

- 「新たなステージ」に対応した防災気象情報のあり方について、交通政策審議会気象分科会の審議において提言がとりまとめられた。
- 可能性が高くなるとも、社会に大きな影響を与える現象が発生するおそれを積極的に発表する。
 - 翌朝までの「警報級の現象になる可能性」の提供
 - 実況情報の迅速化
 - メッシュ情報の充実・利活用促進
 - 時系列で危険度を色分けした分かりやすい表示
 - タイムライン支援のための数日先までの「警報級の現象になる可能性」の提供

	日付	あす	あさって	(金)	(土)	(日)
警報級の	雨	－	中	高	高	－
可能性	風	－	中	高	高	中



おわり

